

新EasyISTRの紹介

(EasyISTR ver 3.39.230530)

1. 複数のcntファイルの設定ができる
 応力解析、伝熱解析用等のcntファイルを保持できる
2. displayServer「wayland」への対応

1. 複数のcntファイルの設定ができる

応力解析、伝熱解析等の複数のcntファイルが保持できる様に修正。

→ 計算に使用するcnt、mshファイルは、hecmw_ctrl.datファイルで指定されている為、EasyISTRが使うcnt、mshファイルもhecmw_ctrl.datから読み取る様に修正。

→ 解析に応じてhecmw_ctrl.datファイルを書き換えて使う様に修正

(複数のcntファイルを準備しておき、解析に応じて必要なcntファイルを使う。)

→ 任意のcnt、mshファイルが使用できる。

OpenFOAMとの連成解析をする時、

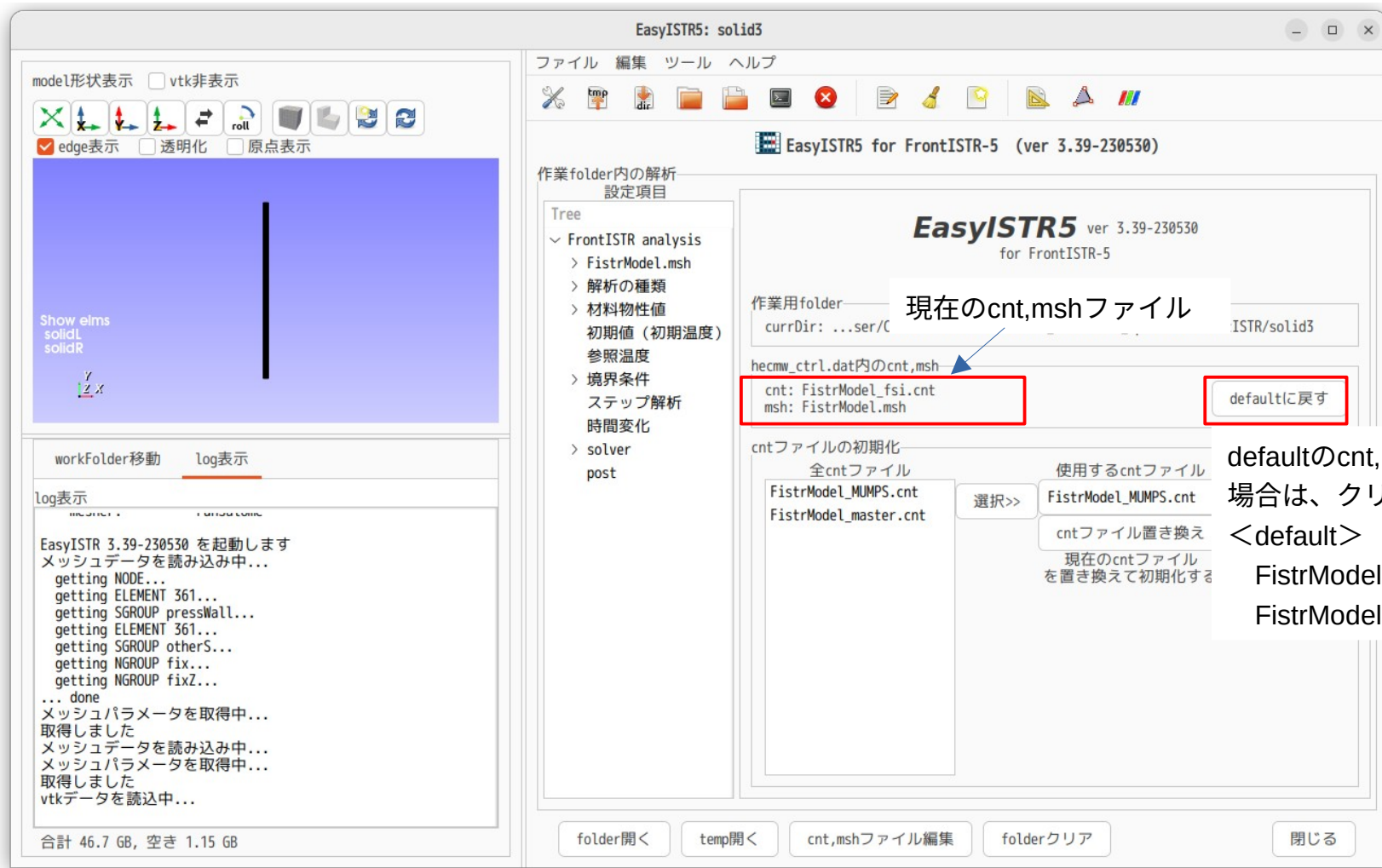
- 流体-構造連成解析 (大変形の動解析)
- 流体-固体の熱連成解析 (伝熱の動解析)
- 固体の熱ひずみ (線形の静解析)

を行うが、これらの解析条件を設定する必要がある。

各々の設定済のcntファイルを保持しておき、連成計算時には、

必要なcntファイルを選択して使用できる様にしている。

<使用しているcnt,mshファイル>



defaultのcnt,mshファイルに戻す場合は、クリックする。

<default>

FistrModel.cnt
FistrModel.msh

2. displayServer 「wayland」 への対応

ubuntu2204のリリース時期は、displayServerがX11からwaylandへの移行期。

ubuntu2204のリリース時は、displayServerを「X11」 or 「wayland」にするか選択できた。

この時期は、QtAppがwaylandに対応していない、window_IDが取得できない事から

SalomeやVTKのwindowの動作が不安定。

この為、ubuntu2204をX11で起動していた。

→ 5/23のubuntu2204のupdateから、displayServer「X11」が選択できなくなった。

(waylandに完全移行した)

これにより、displayServerをwaylandに設定した上で、擬似的にX11的な動作をさせる為に、

EasyISTRの起動時に、

```
export GDK_BACKEND=x11
```

の環境変数を追加。